

平成20年12月18日
国土交通省

市民による「身近な水環境の全国一斉調査」
第5回調査結果のお知らせ・第6回参加者の募集
～身近な川や湖を調べてみよう～

平成16年より、市民と国土交通省が協働して「身近な水環境の全国一斉調査」を行っています。この調査を継続して行うことにより、市民の水環境に関する理解と関心、流域の連携などを深めることが期待されます。

平成20年は6月8日(日)を一斉調査日として第5回調査を実施し、過去最多の全国約6,200地点において、8,700人を超す市民の方々に参加いただきました。この調査の結果、全調査地点のうち、41%の地点がCOD値3 mg/L未満のサケやアユが生息できるようなきれいな水質であることが分かりました。

現在、平成21年6月7日(日)に実施する第6回全国一斉調査の参加者を募集しておりますので、より多くの方々のご参加をお待ちしています。

問い合わせ先

国土交通省 河川局 河川環境課

課長補佐 井田 泰蔵 (内線 35-452)

流域水環境係長 増田 大美 (内線 35-483)

TEL 03-5253-8111 (代表) 03-5253-8447 (夜間直通)

1. 身近な水環境の全国一斉調査とは

河川をはじめとする身近な水環境に対する市民の意識の高まりを受け、全国各地で、数多くの市民団体等により水質調査が行われています。このような調査を全国統一の手法で同一日に実施し、その結果を分かりやすいマップにまとめることで、身近な水環境に関する市民の理解と関心が深まることが期待されます。

このため、全国各地で水質調査を行ってきた主な市民団体の代表者が集まって設立した「全国水環境マップ実行委員会」が統一的なマニュアルを作成しました。これに基づき、平成16年6月6日（日）を中心に、市民団体と国土交通省が協働して第1回目の「身近な水環境の全国一斉調査」を行いました。これ以降毎年6月に一斉調査日を設け、全国の河川や水辺等身近な水環境の水質調査を実施しています。この調査を今後とも継続することにより、市民の水環境に関する理解と関心、流域の連携等をさらに深めていきたいと考えています。

2. 第5回調査の結果概要

平成20年は、第5回「身近な水環境の全国一斉調査」を市民団体と国土交通省が協働して行い、その結果を分かりやすく表示したマップを作成し、パンフレットにまとめました。

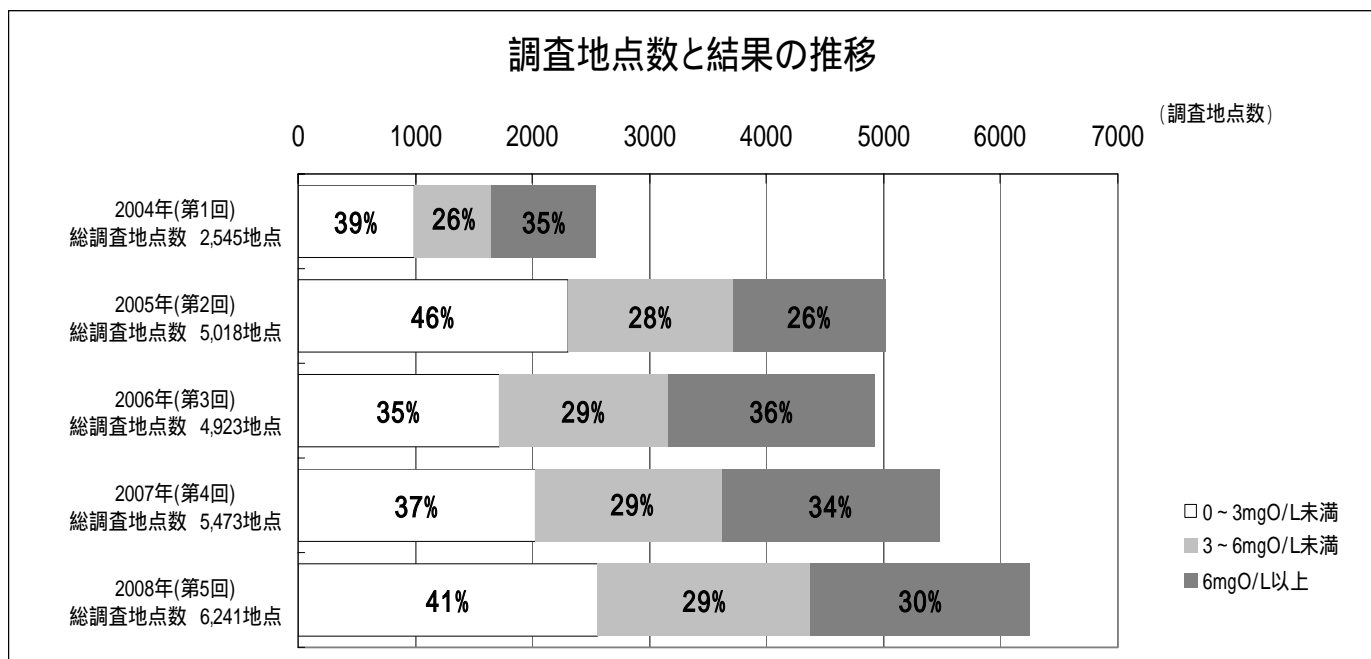
今回は47都道府県全てにおいて、合計8,700人を超す市民の方々に参加いただき、調査開始から5年間で最多の人数となりました。また、調査地点数も増加し、最大の6,241地点となりました。

調査の結果、全調査地点のうち、41%の地点がCOD値3 mg/L未満のサケやアユが生息できるようなきれいな水質であることが分かりました。また、調査をきっかけとして、全国各地でインターネット技術を活用した流域水質マップの公開等独自の取り組みが始まっています。

- ・ 調査実施日：平成20年6月8日（日）を中心に実施
- ・ 調査方法：調査マニュアルに基づき、簡易機材でCOD（参照）等を測定
- ・ 調査参加の状況：

	参加団体数（個人を含む）	参加人数（概算）
2004年第1回調査	531	4,000人
2005年第2回調査	1,000	8,400人
2006年第3回調査	944	8,500人
2007年第4回調査	917	8,200人
2008年第5回調査	997	8,700人

- ・ 全調査地点の結果の比率：
 - COD値0 mg/L以上3 mg/L未満 41%
 - COD値3 mg/L以上6 mg/L未満 29%
 - COD値6 mg/L以上 30%
- ・ 調査結果の詳細・マップ：以下ホームページの結果概要パンフレットをご覧ください。
http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/research/index.html



3. 第6回調査の参加募集

調査が全国に広まる一方、地域による地点数のばらつきが大きく、調査が行われていない河川も数多くあります。現在、平成21年実施予定の第6回「身近な水環境の全国一斉調査」の参加者を募集しておりますので、より多くの方々のご参加をお待ちしています。

- ・ 調査実施日：平成21年6月7日(日)
- ・ 調査方法：参加団体が身近な水辺を調査地点に選び、配布する調査器材(平成21年5月頃配布予定)に基づいて実施。
- ・ 参加申込方法：申込用紙に必要事項をご記入の上、以下の連絡事務局(みずとみどり研究会)に、平成21年3月10日までにFAX又はメールにてご連絡下さい。申込用紙は以下ホームページからもダウンロードできます。
 : 身近な水環境の全国一斉調査連絡事務局ホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)
 : 国土交通省ホームページ
 (http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyokankyou/research/index.html)

・ 申込先・お問い合わせ先

事務局：全国水環境マップ実行委員会事務局(問い合わせのみ) 担当：吉川
 〒104-0042 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 財団法人河川環境管理財団内
 電話：03-5847-8303 URL：<http://www.kasen.or.jp/>
 連絡事務局：みずとみどり研究会 気付(申込・問い合わせ) 担当：佐山
 〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202
 電話/FAX：042-327-3169
 E-Mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp URL：<http://www.japan-mizumap.org/>

CODを測定した理由とBODとの関係について

COD(Chemical Oxygen Demandの略称)は、化学的酸素要求量または化学的酸素消費量と呼ばれ、試水中に、過マンガン酸カリウム等の酸化剤で酸化される物質(主に有機物)がどのくらい含まれるかを示します。このCODは、有機物による汚濁の目安となるため、湖沼、海域水質の環境基準に用いられています。CODの測定は、JIS(日本工業規格)で定められ

た標準測定法だけでなく、現地で簡易的に測定する器材が開発されており市民団体による水質測定で広く利用されています。

一方、河川水質の環境基準には、BOD（Biochemical Oxygen Demand の略称）が用いられています。BODは、生物化学的酸素要求量または生物化学的酸素消費量と呼ばれ、試水中に、微生物により分解されやすい有機物がどのくらい含まれるかを示します。CODと同様に有機物による汚濁の目安となりますが、5日間かけて微生物による分解を行う必要があるため現地で簡易的に測定する方法はありません。

「身近な水環境の全国一斉調査」では、河川でも湖沼でも調査を行っていますが、簡易器材が開発されているCODを指標に調査を行っています。なお、東京都内河川で標準測定法によりBODとCODを測定した結果からは、BODとCODとは比較的よい相関関係が認められ、BODはCODのおよそ0.5~0.6倍程度になることがわかっています。